

日産自動車株式会社 サステナビリティボンド レポート

日産自動車株式会社（以下「日産」）は、2022年7月にサステナブル・ファイナンス・フレームワークを策定し、2023年1月、2月に総額2,000億円のサステナビリティボンドを発行しました。調達資金の充当状況および環境・社会への貢献については以下の通りです。

1. アロケーション

調達資金合計：2,000億円

社債の概要			
社債の名称	第66回無担保社債 (社債間限定同順位特約付) (サステナビリティボンド) 愛称：サクラ[SAKURA]債	第67回無担保社債 (特定社債間限定同順位特約付) (サステナビリティボンド)	第68回無担保社債 (特定社債間限定同順位特約付) (サステナビリティボンド)
対象投資家	個人投資家	機関投資家	機関投資家
払込日	2023年2月6日	2023年1月27日	2023年1月27日
償還日	2026年1月20日	2026年1月20日	2028年1月20日
発行金額	1,400億円	500億円	100億円

調達資金の充当状況

A) グリーン事業

適格事業	適格基準	資金充当額
クリーン輸送	ゼロエミッション車の車両及び構成部品への研究開発・投資・支出	1,640億円
CO ₂ 排出量(スコープ1・2)削減に向けた取組	再生可能エネルギー由来の電力調達支出	40億円

グリーン事業合計 1,680億円

B) サステナビリティ(グリーン/ソーシャル)事業

適格事業	適格基準	資金充当額
EV社会実現のためのインフラ整備	クリーン輸送 (BEV 充電設備への研究開発・投資・支出)	20億円
自動運転関連技術	自動運転関連技術 (「ProPILOT ¹ 」や次世代 LiDAR を活用した緊急回避技術等、交通事故死者ゼロに向けた技術の研究開発)	280億円
Mobility as a Service “MaaS”	ゼロエミッション車や低環境負荷車を使用したサービス、過疎地域や被災地等、交通アクセスが限定的なエリアでの取り組みに関する研究開発・支出	20億円

サステナビリティ事業合計 320億円

¹ <https://www.nissanusa.com/experience-nissan/news-and-events/nissan-propilot-assist.html>

・日産は、1,000 億円を 2020 年度、2021 年度、2022 年度における既存の適格事業に、1,000 億円を 2023 年 4 月から 2023 年 6 月における新規の適格事業に充当し、調達した資金総額 2,000 億円の充当を行いました。

・財務部、サステナビリティ推進部、オペレーション戦略室、経営戦略本部経営戦略室、グローバルセールスファイナンス部門の上級管理職を含む代表者で構成されるサステナブル・ファイナンス委員会にて、調達資金が充当される上記の適格事業が、適格基準や全社のサステナビリティ戦略に沿っていることを確認しています。

2. 環境・社会へのインパクト

A) グリーン事業

適格事業	適格基準	環境への貢献
クリーン輸送	ゼロエミッション車	BEV の販売台数：2022 年度 158 千台
		CO ₂ 排出量の削減 ² ：2022 年度 2,415,257 CO ₂ -t
CO ₂ 排出量(スコープ 1・2)削減に向けた取組	再生可能エネルギー	電力使用に占める再生可能エネルギー利用率： 2022 年度 11.9%
		再生可能エネルギーの年間消費量： 2022 年度 311,033 MWh /年

B) サステナビリティ(グリーン/ソーシャル)事業

適格事業	適格基準	環境・社会への貢献
EV 社会実現のための インフラ整備	クリーン輸送 (BEV 充電設備)	様々なパートナーシップ ³ を通じた急速充電器の導入および関連サービスの拡充
自動運転関連技術	自動運転関連技術	ProPILOT 搭載車の販売台数：2022 年度 63 万 3 千台
MaaS	ゼロエミッション車 や低環境負荷車を使用したサービス、過疎 地域や被災地等、交通 アクセスが限定的な エリアでの取り組み	日産 EV エコシステムやスマートシティ実現に向けた実証実験に取り組んでいます。 ■クリーン MaaS (ゼロエミッション車や低環境負荷車を使用したサービス) ・イージーライド ⁴ (日本)：日産リーフベースの自動運転車および日産 e-NV200 ベースの自動運転車を使用し、3 回の実証実験や試乗会を実施しました。 ■過疎地域や被災地等、交通アクセスが限定的なエリアで展開する MaaS ・福島県浪江町 ⁵ (日本)：2 回の実証実験を経て、2022 年 6 月になみえスマート モビリティが通年運行を開始しました。

² 販売した 158 千台の BEV による CO₂ 排出量削減値の合計

³ いくつかの事業はジョイントベンチャーにより運営されているため数値指標は非開示

⁴ <https://easy-ride.com/>

⁵ <https://www.smamobi.jp/>

3. 第三者評価機関によるアニュアルレビュー

日産は、フレームワークに定められた適格基準の順守状況の確認のため、サステイナリティクスによるコンプライアンスレビューを取得しました。

以上